

2009年11月10日

## 出張報告書

京都FD開発推進センター

深野 政之

日程：2009年10月30日(金)10:00~17:30

行事名：国際高等教育フォーラム「急変する世界環境における高等教育の公的役割」

主催：早稲田大学アジア太平洋研究センター／名古屋大学大学院国際開発研究科／東北大学高等教育開発推進センター、共催：早稲田大学グローバルCOE「アジア地域統合のための世界的人材育成拠点」、助成：国際交流基金、後援：オーストラリア大使館／日本高等教育学会

出張先：早稲田大学（東京都新宿区）

参加者：深野（報告）・川面

### プログラム

イントロダクション「急変する世界環境における高等教育の公的役割」米澤彰純（東北大学）／アーサー・ミアマン（久留米大学）

基調講演1「公共財としての高等教育：グローバルな対話への欧州の展望」マレイク・ファン・デア・ヴェンデ（アムステルダム・ユニバーシティ・カレッジ）

基調講演2「高等教育の世界秩序再考」フィリップ・G・アルトバック（ボストン・カレッジ）

1. 「東アジアの展望」黒田一雄（早稲田大学）
2. 「東南アジアの展望」スパチャイ・ヤヴァプラバス（東南アジア地域高等教育開発センター）
3. 「リージョナル化に関する世界の展望」ジェーン・ナイト（トロント大学）
4. 「研究者のグローバルな移動」テリー・キム（ブリュネル大学）
5. 「国家・労働市場・国際的な学生の移動」グラシア・ファーラー（早稲田大学）
6. 「グローバルな幸福のための高等教育国際協力：国境を越えたカリキュラム開発」北村友人（名古屋大学）
7. 「新しい世界環境における公共財としての高等教育」サイモン・マージンソン（広島大学／メルボルン大学）

### 総括・所感

海外の高名な高等教育研究者を多数そろえた会合であり、研究者と学生の国際「移動」に焦点を当てた報告が多かった。スパチャイ氏によるタイを中心とした東南アジアの高等教育需要と供給に関する報告、ファーラー氏による中国人留学生の国際移動に関する報告は、高等教育進学率が急激に上昇しているアジアの現状と、その問題点を析出させており、興味深いものであった。

ディスカッションは、世界的な高等教育の私学化、私有化の流れに対して、公的役割、公共財としての高等教育を強調したものになった。特に日本の高等教育に対する公財政支出が少ないことが指摘され、政権交代による政策転換にまで話が及んだ。

また、ヨーロッパにおけるボローニア・プロセスのような、アジア・太平洋地域の高等教育レベルでの統合——学位、年限、評価、カリキュラム等——に関する期待も表明されたが、例えば中国、韓国、日本の3カ国を取ってみても、高等教育レベルでの統合には大きな障壁が多数あることが指摘された。

報告者が多数であったために開発教育にまで話が及んでしまい、同時通訳の問題もあって散漫になってしまった感もあったが、7時間におよぶ研究者同士の討論によって、以上の通りいくつかの問題点を明らかにすることができたのではないかと考える。

以上